

第 69 回高エネルギー加速器研究機構経営協議会議事要録

日 時 令和 3 年 3 月 24 日（水）13 時 30 分 ～ 15 時 00 分

開催形態 ウェブ会議

出席者 伊佐間委員、小出委員、郷委員、合田委員、田島委員、西島委員、児玉委員、野口委員、三木委員、山内委員、内丸委員、岡田委員、幅委員、徳宿委員、小杉委員、山口委員、佐々木委員、齊藤委員
(欠席者 武田委員、長谷川委員、神谷委員)

陪席者 高橋理事、住吉監事、辻監事、藤澤総務部長、阿部財務部長、五味田研究協力部長、西施設部長、柴原総務課長、櫻井人事労務課長、梅崎主計課長、佐藤施設企画課長、幸田東海管理課長、柴沼監査室長 他

配付資料

1. 第 68 回経営協議会議事要録
2. 次期役員等について
3. 令和 3 年度の年度計画について
4. 役員の退職手当額に関する業績勘案率について
5. 役員の本給月額の設定について
6. 令和 3 年度機構内予算案について
7. 共通基盤研究施設における活動と研究

議事に先立ち、山内議長から開会の挨拶があった。

引き続き、資料 1 の第 68 回議事要録については、既に確認いただいているため確定版として配付している旨の説明があった。

議 事

1. 報告事項

- (1) 次期役員等について

山内議長から、資料 2 に基づき報告があった。

2. 審議事項

- (1) 令和 3 年度の年度計画について

幅委員から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

<主な質疑応答等>

- ・東北大学のTIAとの連携はどのようなものか。例えば、東北に建設されている次世代放射光施設と関連した内容なのか。
→東北大学とは次世代放射光施設ではなく、半導体分野で連携している。
- ・次世代放射光施設においては、産業界のほか、Spring-8でも連携を進める話を聞いている。KEKはどのような立ち位置を考えているのか教えてほしい。
→KEKは次世代放射光施設との連携として量子科学技術研究開発機構(QST)と協力協定を締結し、人事交流等を進めている。また、東北大学に発足された国際放射光イノベーション・スマート研究センターとは今後どのように連携していくのか検討中である。
- ・第6期科学・技術イノベーション基本計画を意識した取組は考えているか。
→令和3年度の年度計画ではなく、第4期中期計画に取組を反映する予定である。

(2) 役員の退職手当額に関する業績勘案率について

山内議長から、資料4に基づき、役員の退職手当額に関する業績勘案率について説明があり、審議の結果、神谷理事の業績勘案率を標準の「1.0」とすることが了承された。

(3) 役員の本給月額決定について

内丸委員から、資料5に基づき、機構長の本給月額の決定について説明があり、審議の結果、機構長の本給月額は現行どおり8号給とすることが了承された。

引き続き、山内議長から、理事の本給月額について説明があり、審議の結果、本給月額は現行どおり内丸理事は6号給、岡田理事、幅理事及び足立理事は5号給とすることが了承された。併せて、高橋理事の本給は月給2号給であることの報告があった。

(4) 令和3年度機構内予算案について

内丸委員から、資料6に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

3. 研究活動報告

(1) 共通基盤研究施設における活動と研究

佐々木委員から、資料7に基づき報告があった。

<主な質疑応答等>

- ・国際宇宙ステーション(ISS)で実施した生体等価物質による放射線量測定は世界で初めてということだが、このことが社会に与える影響はどのようなものと考えているのか。
→今すぐ社会で役に立つものではないが、宇宙開発を進めていく中で有人飛行が重要になる機会が生じると考えている。その際に被曝を実時間により測定できるモニターが開発されれば、人体の被曝管理に非常に有用なものとなると考えている。
- ・加速器における放射化施設の廃止の条件はどのようなものなのか。

- クリアランスレベルを決め、基準以下となった放射化物は廃棄ができると定めているが、加速器施設は原子炉に比べ制度整備が進んでいない。加速器施設の放射化をデータ化し、クリアランス制度の整備に貢献できるよう進めたいと考えている。
- ・日本原子力研究開発機構のクリアランスのプロジェクトに組み込まれているのか。
- 加速器施設は原子炉とは別の法律で規制されているほか、対象となる放射線の種類及び半減期も異なるため、別に進められている。
- ・飯館村で測定したデータが持つ意味について、社会にどのように発信しようとしているのか教えてほしい。一般に分かる説明をつければ、原子力発電所事故の影響を知るための良い手立てになるのではないか。
- KEKは、原子力発電所事故後10年を機に、蓄積したデータを村民に公開したが、まだ詳細な解析まで進んでいない。一方で、放射線量の減衰データによると、人が立ち入る地域と制限区域で異なり、人間活動による影響も判明している。今後、結果を公開し、一般の方も原子力発電所事故による影響について考える機会にしたい。

4. 自由討論

<主な質疑、発言等>

- ・富岳が3月より本格稼働し、利用課題の選定も始まっている。このレビュアーを募っているが、素粒子原子核分野は比較的集まっていないため、KEKにも協力をお願いしたい。また、富岳は汎用機ではあるが、京と比較して100倍程度の計算能力があるとともに、使い勝手も向上していることから、物理学関係でも利用拡大をお願いしたい。更に、これまで大規模実験では計算科学は援用であったが、電気代や資材費が高騰しているこの機会に連携を高め、計算機を十分に生かせる利用を進めていきたいと考えている。また、総合科学研究機構(CROSS)、高輝度光科学研究センター(JASRI)、高度情報科学技術研究機構(RIST)の登録施設利用促進機関による合同シンポジウムも行っているため、是非目を向けてほしいと考えている。
- 現在ではスーパーコンピュータの利用が社会的に大きく進んでいるが、KEKでは1980年代より素粒子分野においてスーパーコンピュータを利用している。現在でも研究を進める上で不可欠であり、今後もコミュニティとして全面的に協力していきたいと考えている。また、現在もKEKでは富岳を利用している研究者はいるが、今後は更に利用が進むと考えられるので、是非連携を高めていきたいと考えている。
- ・COVID-19による研究開発の影響はどのようなものか。
- KEKではつくばと東海含め3名の感染者が確認されたが、現在は快復している。ユーザーの感染者はおらず、クラスターの発生もないため、比較的影響は少ないという印象である。但し、加速器の運転では特に外国人ユーザーが来日できないため、日本人ユーザーの負担が増えており問題と感じている。これが1、2年続くような見通しならば、何か対策を打つ必要があると危機感を持っている。
- ・COVID-19の影響について、研究は、リモートでの実施や実験サンプルを送り結果が届く

メーリングサービス等により具体的な遅れは生じていないが、その一方で学生が現場において直接研究に関われる機会が無くなったことが問題と感じている。結果として、実際に機器を使用し試行錯誤して良いデータを取るなどの経験が失われ、そこから生み出される新しい価値が無くなることを危惧している。そのため、J-PARC では、人数制限や感染対策等を徹底するとともに、可能な限り現場作業ができる環境を整えることにより、実地の経験が失われないようグループで意識を共有し取り組んでいる。

- ・ 昨年は COVID-19 の影響により小学校等が学級閉鎖された際、科学技術広報研究会を通じ KEK を含めた様々な研究機関の動画が公開されたが、このような取組はあるのか。また、次世代の教育を意識した広報の取組はあるのか。
- 昨年は COVID-19 のため一般公開といったイベントが現場で実施することができなかった。そのため、新しい動画を増やしたり、ウェアラブルカメラ等によりオンラインで現場を見ることが出来る取組にも力を入れている。これらは YouTube の KEK チャンネルから視聴可能である。
- ・ SuperKEKB 加速器の初衝突実験をニコニコ生放送で中継する取組は評判が良かったと思うが、次の取組は考えていないのか。
- 現在はそのような企画はないが、機会があれば是非実施したい。
- ・ 国立科学博物館にて加速器にハイライトした展示が 7 月 13 日（火）から 10 月 3 日（日）まで行われることが紹介された。加速器に興味を持ってもらい、足を運びたいと思われる企画を目指して進めている。
- ・ 山内議長より、2021 年に KEK は 50 周年を迎えるが、関連したシンポジウムや催し物、11 月にはセレモニーやコンサートを企画していることが紹介された。このことは、第 6 期経営協議会の委員にも案内させていただく予定であるとの説明があった。

5. 閉会

山内議長から、第 6 期経営協議会委員の任期が令和 3 年 3 月 31 日で満了するにあたり、委員への謝辞が述べられた。

以上